



311甲状腺がん家族の会 Thyroid Cancer Family Group

311甲状腺がん家族の会は、社会的に孤立している甲状腺がん患者家族同士の親睦を深めるとともに、患者の治療や生活の質を高めることができるよう関係機関に働きかけることを目指しています。

こんな活動をはじめています

- 家族サロン(交流会活動)
- 甲状腺学習会(医師を囲んでの勉強会)
- 治療相談(セカンドオピニオンや治療方針の相談)
- 生活支援(生活の相談や財政面の支援・支援物資の配付)
- 保養・リフレッシュ
- 要望や政策提言



世話人

代表世話人：河合弘之(弁護士)、千葉親子(元会津坂下町議)

副代表世話人：武本泰(歯学博士)、飛田晋秀(写真家)

世話人：牛山元美(医師)、狩野光昭(いわき市議)

アドバイザー：野宗義博教授(島根大学医学部)、木村真三教授(独協大学)

311甲状腺がん家族の会・設立趣旨書

3.11 原発事故後、福島県では、事故当時18歳以下の子どもたちを対象とした甲状腺検査が行われ、私たちの子どもたちを含め166の子どもたちが小児甲状腺がんやその疑いと診断されています。さらに、北茨城などの関東地方でも、小児甲状腺がんやその疑いの子どもたちが確認されています。

これら小児甲状腺がんの多発やそれぞれの個別の小児甲状腺がんについて、多くの専門家が、東京電力福島第一原発事故が原因とは考えにくいと主張しています。しかし、私たちは、その言葉に戸惑いを感じています。福島原発事故で大量の放射性物質が放出され、私たちと私たち家族は被ばくしました。福島原発事故が原因ではないと否定する根拠は見当たりません。

私たちの子どもたちは、唐突に甲状腺がんと宣告され、その瞬間から、がんと向き合わざるを得ない人生を強いられています。同時に、甲状腺がんと診断された子どもを持つ私たち家族は、まわりの目を恐れるなど、様々な理由で孤立を余儀なくされてきました。そのため必要な情報も共有できず、さらに悩みを深めています。

この会は、こうした患者家族同士が交流するために設立しました。今後、患者の治療および生活の質を高めることができるように情報交換を行い、家族間の交流で見えてきた様々な課題の解決のために取り組んでいきたいと思ひます。

2016年3月12日
311 甲状腺がん家族の会